

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス・児童発達支援 HIKARIE 5th		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 8日		2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年 12月 17日		2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	グループに属するお子様の年齢は小1～3年生となっており、全体のニーズや課題も考慮した編成となっているため、集団活動と個々の課題に応じた学習や活動にバランスよく取り組むことができる。	お子様の年齢や実態に合わせた集団となっているため、個別の活動だけでなく、集団活動の中でも発達段階やニーズに沿った共通のねらいを設定し、子どもたちも前向きに取り組むことができる。活動内容も運動・制作・微細運動・ソーシャルスキルトレーニング等、幅広い内容を計画し実施している。	家庭や学校と連携を図り、お子様の様子や課題について情報共有を行っていく。また、指導員の支援の質向上のため、ケース検討や研修も積極的に行い、お子様への理解を深め、教材研究や支援方法の検討を行っていく。
2	保護者様と送迎時に対面でお子様の様子について情報共有を行ったり、連絡用アプリを活用して活動のねらいや内容、お子様の姿についてわかりやすくお伝えしたりすることができている。また、保護者様と事業所の間で連絡事項のやり取りをスムーズに行えるように環境を整えている。	日々の活動の様子を文章の記録だけでなく、写真も交えることで、事業所でのお子様の姿をよりわかりやすくお伝えしている。スケジュールや連絡事項はアプリを活用することで、保護者様にも随時確認いただける環境を整えている。	一人ひとりが課題に対して取り組んでいることや、その進捗・成果をお伝えしていく。また事業所以外の、家庭や園でも取り組めるような、かかわり方や環境設定の工夫についても情報共有を行っていく。
3	特別支援や小中学校の教員、保育士、心理士、作業療法士等、多様な専門性を持つ職員がグループの枠を超えて意見を出し合える環境を生かし、幅広い活動内容を実施することができる。	活動の計画を立てる際、ねらいや目的を明確にしている。職員一人ひとりがそれぞれの専門性を生かした視点で意見を出し合い、提案している。活動前には打ち合わせを行い、共通認識を図ったうえで支援にあたっている。	他グループの職員とも積極的に交流を図り、教材や活動内容についてアイデアを共有するなどをして、より充実した支援を提供できるよう目指していく。常に学ぶ姿勢を大切に、指導員としての知識やスキルを向上させていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他の子どもと活動する機会。	利用されているお子様の実態や安全性を考慮し、事業所内での活動を優先的に実施していたため、地域の他の子どもと活動する機会の設定が難しい状況であった。	活動内容や場所について安全性や必要性を十分に考慮し、実施できることを検討していきます。
2	保護者会の実施など保護者同士で交流する機会の設定。	事業所内のイベント等で保護者様にボランティアとして参加いただき、保護者同士が話をする機会をつくり、交流を深めています。	保護者様同士が交流できるような機会について検討を行っていきます。
3			